あなたが私の家に来る前日の夜に
この手紙を書いています。

なんだか緊張して眠れなくて…。
筆を取りました。

あなたが家に遊びに来るのははじめでで、
今日一日ソワソワして、落ち着かなくて。
お手伝いさんと一緒に掃除をしていました。

恋をすると、会わない時間も
頭がいっぱいになってしまうのですね。

あなたがこの手紙を読んでいる頃には
私は告白をしているんでしょうか…？
考えるだけで、今にも心臓が飛び出そうです。

この感情に気づかないで
「好き」と言っていた頃が
懐かしくもあり、恥ずかしくもあります。

振り返ってみれば、
私はずっと片想いしていたのだと思います。

前に過ごした高校三年間でも
仲良くして貰っていましたが、
あなたの傍にはひよりちゃんたちが常にいて、
そこまで親密にはなっていませんでした。

その状況に対して、
私は何かしようとは思いませんでしたし、
このままでいられたら良いと思ってました。

高校を卒業しても、
仲の良い友達でいられたら、それでいい。

でも、前にも話しましたが、
私が高校卒業後、この街を出ることになった時、
あなたに会えなくなることが寂しくて…。

あと、これは話していませんでしたが、
卒業式の日、あなたの姿を探していたら、
違う女の子と笑い合ってる姿を見てしまって。
胸が痛かったんです。

きっとあれは、恋の痛みだったんですね。
それが何かもわからず私は、
感情を自分の中に仕舞い込んでいました。

もう、あの時の私はいません。
あなたの一番傍にいるのは私でありたいです。

好きです。大好きです。

あなたと結ばれるために私は、
未来から戻ってきたんだと思います。

もし私の気持ちに応えてくれる頂けるなら、
これ以上の幸せはありません。

二人で一緒に踊ることができる日を夢見ています。

ここまで読んで下さってありがとうございました。

真心を込めて

椿つみき